

平成29年6月13日
特別委員会(協議事項)

特別委員会では、これまで2回にわたり、公共施設等の総合的かつ、計画的な管理・運営について、将来のまちづくりの方向性、公共サービスのあり方も含め、基本方針の協議がされてきました。

今回の特別委員会では、公共施設等総合管理計画の策定にあたり、基本方針と実施計画に対する議会としての意見を求められました。

基本方針に対する市民等からの意見

3月に開催した特別委員会後に行った、基本方針に対する市民からの意見募集、各地域(まちづくり協議会の総会等)での説明及び行政改革推進委員会からの意見への対応について説明を受けました。

◆主な意見とその対応

意見 合併による公共施設の数が他都市と比べても数倍多いこと、公共施設等の維持管理費や将来更新費用が多額となることを強調すること。

対応 現状や課題に関する基本認識の3項目の中で取り上げ、市の認識として明記している。

意見 公共施設全体の30年後を描く前に、火葬場やごみ処理場など目の前の事を進めることが先ではないか。

対応 個別施設の議論も進めながら、公共施設全体のあり方についてもしっかりと議論を進める。

意見 まち協エリア内の施設だけでなく、ビッグアリーナや文化会館など、市全体のことも考えるべきでは。

対応

実施計画の策定における市民の意向把握の中で、市全体の公共施設の現状や今後のあり方を検討していく。

◆その他のご意見への対応

個々の施設等の考えについては、実施計画を策定する中で検討すること。また、そういった視点も参考するといった対応でした。

基本方針の策定

2回にわたる特別委員会での協議及び市民からの意見募集等、また、数十回の執行部側の本部会議等を経て、計画の基本方針案が示されました。

主な質疑と答弁

問 長寿命化計画が必要な施設と必要ない施設をどこで判断するのか。

答 長寿命化計画は、基本的にどの施設においても必要と認識している。

問 実施計画の短期、中期、長期はどれくらい目安なのか。

答 短期は、第八次総合計画の終了する平成36年、中期は、そこから10年近く、長期は、基本方針策定から約30年をスパンとしている。

問 この計画は行政財産のみとしているが、普通財産にも土地・建物・インフラもあるが、普通財産の売却も含めて組み入れるべきではないか。

答 今回の計画は公共施設(行政財産)ということでの計画を作成したので理解いただいた。

問 火葬場、ごみ処理施設、卸売市場などの著大事業における、基本的な方針の表現について、それぞれの施設に関する構想、計画に沿った形の表現としては。

答 現在、議論されているような施設については、その状況も踏まえ

機能としては載せないこととしている。

問 計画の策定における市民の意向把握の具体的な方法は。

答 平成29年度は、各地域においてワークショップを実施している。市民の皆さんの考え、思いをお聞きしたい。

問 ワークショップ開催の周知方法は。

答 広報紙等でお知らせするほか、意見募集の際に、ワークショップ開催について事前の周知を行っている。



特別委員会の様子

委員会の意見

高山市公共施設等総合管理計画の策定にあたっては、特別委員会における各委員からにおける意見及び質疑を踏まえ、十分留意して対応されることを委員会の意見として行政に伝えました。

公共施設等総合管理計画に関する特別委員会の廃止

当委員会は平成28年9月定例会において、公共施設等総合管理計画に関する調査・研究及び審査を行うことを目的に設置されました。

その後、3回の特別委員会の経緯を踏まえ、平成29年6月13日に開催した委員会において、委員会の任務が概ね完了したものと判断し、6月21日、6月定例会最終日において、当委員会を廃止しました。